

第 23 回鉦山跡措置技術委員会議メモ（速報版）

1. 日時：令和 4 年 3 月 14 日(月) 13:00～17:00

2. 場所：日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センター 総合管理棟 3 階
(ウェブ開催)

3. 議題

鉦山跡措置に向けた取組について

4. 出席者委員（全員オンライン出席）

占部委員長、緒方委員長代理、河村委員、小松委員、富山委員、増本委員、山路委員、吉田委員

5. 審議概要

上記議題に沿って人形峠環境技術センターが説明を行い、委員から質問、提言を受けた。

(1) 鉦委 22-01：第 22 回委員会議事録の確認

- ・前回の議事録の確認をいただき、確定とした。

(2) 鉦委 23-02 坑水発生源対策に向けた取組み

- ・露天跡地、見学坑道、大排水溝の発生源対策について、次年度以降、検証的な対策もしくはそれを計画的に実施することについて賛同が得られ、少しずつ効果を確認しながら進めるという方法が確実であるという意見をいただいた。
- ・捨石たい積場や露天掘り跡地の対策工として遮水シートの敷設、覆土を実施したが、効果が現れるまで 3 年を要したという事例を紹介していただいた。
- ・露天の発生源対策の実証試験としてブルーシートの西側部分の敷設について、敷設試験を実施するのであれば、シミュレーションと同じ全面敷設の条件での実施を提言いただいた。また、ブルーシートを敷設の際には表面排水を排水路へ確実に流れることに留意するよう意見をいただいた。
- ・坑道上部に陥没が発生している事実から、将来、地震や大雨の発生により崩壊の発生の可能性があるため、坑道の上部の安全性の検討について意見をいただいた。
- ・EEF 法面对策工の一つである水平ボーリングで発生する排水の水質確認に留意するよう提言された。
- ・発生源対策は、長期にわたる対応という視点も必要であり、長期の計画も入れながら、当面の課題をこなしていくという方法で進めるよう提言をいただいた。

(3) 鉱委 23-03 鉱さいたい積場措置に向けた取組み

- ・ 固結鉱さいからのラジウムの溶出目標を排水基準レベルや廃棄物最終処分場の基準レベルで議論して目標値を決めて、その上で強度試験、それから設計という形で取り組む方が良いとの提言をいただいた。現在のような厳しい基準を目標にすると、他の鉱山への要求が厳しくなる可能性もあり、その点も考慮して目標値を決定すべきとの意見をいただいた。
- ・ 鉱さいたい積場のヨシの処分方法として、微生物による分解方法があることを紹介いただいた。
- ・ 鉱さいたい積場の措置は、自然相手の対応になるため、多くの課題に対して一つ一つ着実に対応策を具体化し説明をしていって地元との信頼関係を築くことによって、基準設定の見直す話し合いも可能になるという意見をいただいた。

(4) 委員長総括

- ・ 多くの方々のご意見を参考にしながら人形峠環境技術センターが前向きに事業を進めていけるよう、委員会の協力について言及していただき、センターに対しては、今後も安全確保に留意しながら、あるいは住民の意見に耳を傾けながら事業を進めるよう提言していただいた。

(5) その他

- ・ 来年度は、委員会委員の現地見学が実現できるよう、前広の調整をお願いしたいとの要望をいただいた。

以上